

真室川町立歴史民俗資料館企画展

「真室川の自然のきらめき～冬虫夏草の世界～」

真室川町

1. はじめに

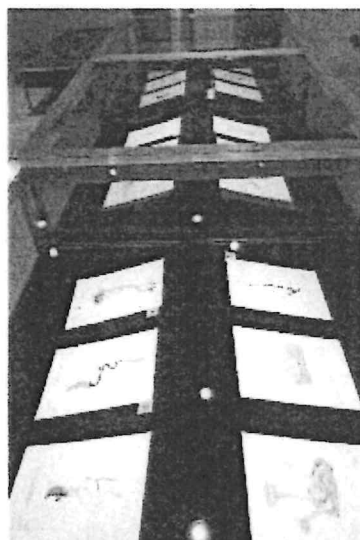
冬虫夏草と聞くと、何やらプーンと体に良さそうな漢方の香りが漂ってくる。想起されるのは山霧が包み込むアジアの高原。職人が這うようにして地面と対峙し、片手鉤を巧みに操ってポッコンポッコンと見つけ出す情景が頭に浮かんでくるような気がしないでもない。日本では採れないと考える方もおられるのではないかと。ところがどっこい冬虫夏草は日本にも存在する。最上地域での採取事例も多いのだ。我々が住まう土地の環境はなんと多様であることか。地域の方々にもこの素晴らしさをもっと知っていただきたい。真室川町立歴史民俗資料館では、山形県立博物館の多大な協力を得ながら「真室川の自然のきらめき」と題して冬虫夏草をテーマとした企画展を催した。

2. 事業のねらい

真室川町由来の植物標本の鑑賞により、町の自然の豊かさ、学術的にも貴重な環境に住んでいる喜びを来館者に実感していただき、また、自然分野に対する興味・関心を深化させるとともに地域理解学習の進展につなげることをねらいとした。



企画展ポスター



複製画展示の様子



解説パネル

3. 具体的な取り組み

- (1) 企画展名 真室川の自然のきらめき～冬虫夏草の世界～
- (2) 開催期間 令和6年7月17日(水)から9月1日(日)まで
- (3) 開館時間 9時から16時30分
- (4) 入場料金 無料
- (5) 企画内容

- ① 冬虫夏草液浸標本、昆虫標本、図表(東北大学総合学術博物館、山形県立博物館、西川町立大井沢自然博物館、株式会社ビーシー、個人所蔵のものを借り受けて展示)

② 複製画(清水大典「冬虫夏草原図複製」(日本冬虫夏草の会発足 20 周年記念日本冬虫夏草の会)より真室川町に関連するものを展示)

③ 山形県立博物館学芸員による展示説明会

(6) 広報活動

① 町内全戸にチラシを配布し、主要施設にポスター掲示を依頼した。また、自然科学分野であることを鑑み、郡内各学校・関係機関に掲示を依頼した。

② 町公式サイトに情報を掲載するとともに、公式 SNS で周知を図った。

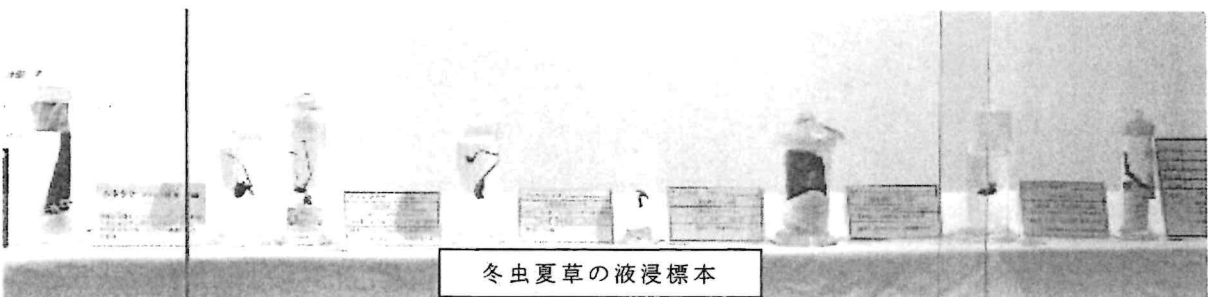
③ 各報道機関に対しプレスリリースを行った。



熱心に鑑賞する来館者



展示説明会の一幕



冬虫夏草の液浸標本

4. 成果と課題

- ・来館者数は延べ 331 名であった。
- ・令和 6 年 7 月豪雨の影響もあり、期間の前半・中盤は来館者数が伸び悩んだ。
- ・昆虫標本を用いることで、寄生前の原型と変形後との比較展示を行うことが出来た。
- ・冬虫夏草の学術的(動物・植物)な側面からのアプローチを主として実施したが、来館者からの理解は得られたのではないかと考えている。
- ・展示標本をじっくりと観察したり、質問をするなど大きな興味関心を示す児童・生徒もあり、自然科学分野を取り上げた意義は大いにあったと思われる。

5 おわりに

山形県立博物館と連携した企画展は、本町で発掘された中期中新世～鮮新世頃の化石「マムログワクジラ」を取り上げた昨年度に引き続き 2 期連続となった。開催に際し尽力いただいた関係各位には改めて深く謝意を申し上げたい。真室川町立歴史民俗資料館の本分は名が示すとおり地域の歴史・民俗・風土を伝えていくことだが、当地の豊かさはそれらにとどまらない。幅広い分野を扱うことで、今後も地域の魅力を多方に発信していきたい。

第2回梅の里ロゲイニング

真室川町

1. はじめに

真室川町のスポーツ推進委員は現在 10 名が委嘱を受けており、それぞれの分野で陰日向なく活躍している。そして、推進委員が連携し、共同企画を催して地域の方々に体を動かす楽しさを伝える活動も行っているところである。特に、昨年度からは「ロゲイニング」に着目し、ツーリズム、防災の要素を加えたかたちでスポーツの魅力発信を目指している。

2. 事業のねらい

ロゲイニングとは、オーストラリア発祥のナビゲーションスポーツである。道具は地図とコンパスのみ。地図に示されたチェックポイントをまわり得点を競うが、ルートは決まっておらずチェックポイント毎に得点も異なる。ソロでも良いし2～5人のチームでも良く、極めて自由度が高い競技だ。制約の少なさは戦略性を高め、主にランナーが時間を競うオリエンテーリングとは一味違った楽しみ方が出来る。

真室川町を舞台にするにあたり、競技の自由度はそのままに、チェックポイントを地域のランドマークや防災拠点とすることで本町の地理、観光資源等を知ってもらう機会を創出し、本町の特性への理解を深めることをねらいとした。

3. 具体的な取り組み

- (1) 大会名称 第2回梅の里ロゲイニング
(兼・第20回町民レクリエーション大会種目)

- (2) 開催期日 令和6年10月14日(祝・月)

- (3) 開催場所 真室川地区周辺

- (4) 参加方法 個人・チームともに可

- (5) 参加費用 1人500円

- (6) ルール概要

- ① 制限時間は90分とする。
- ② スタート・ゴール地点は中央公民館とし、時間内に戻ってこなければならない。
- ③ チェックポイントは全40地点で、遠いほど高得点に設定する。
- ④ スマートフォンで自撮りすることで得点が入る仕組みとする。



競技用の地図

4. 成果と課題

- ・参加者は競技者・スタッフ含め23名であった。
- ・競技者の中には、初めて見る施設(チェックポイント)があった方もおり、本町の新たな発見がみられた。

- ・ランニング、徒歩とスタイルは競技者によって様々であり、老若男女問わず参加できるスポーツだと再認識した。
- ・チェックポイントをとおして、万一災害があった際にどのようなルートで避難場所に向かったら良いか等、防災を考える機会になった。
- ・ルート上のゴミ拾いをしながら競技した方もいて、さらなる展開も期待できる。
- ・全チェックポイントをまわった競技者は1名であり、チェックポイント数と制限時間との再考の余地がある。



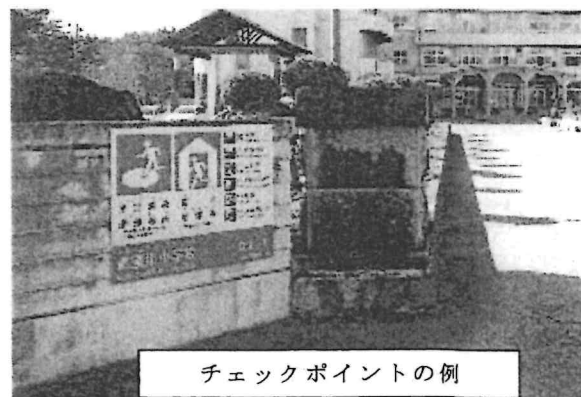
作戦会議の様子



それぞれのペースでスタート



ランドマークでパシャリ



チェックポイントの例

5 おわりに

第2回目を開催してみて、ロゲイニングとツーリズムとの親和性等を再確認するとともに、開催規模・レギュレーションに再考の余地がある等、課題も浮き彫りとなった。チェックポイントの選定如何で真室川町の「何」を楽しんでもらうのか開催者側で特色を出せる競技でもあるので、より趣向を凝らし参加者拡大・継続開催に向けて邁進していきたい。



優勝者による勝利の自撮り



参加者全員で集合写真

生涯学習講座

大蔵村

1. はじめに

現代社会では学校を卒業し、社会人となった後でも新たな知識や技能、教育を身に付けることが必須となっている。文部科学省では「何歳になっても学び直しができる教育（リカレント教育）」をテーマの一つとして取り上げ、説明会を開催するなど、日本全国で「リカレント教育」が行われている。

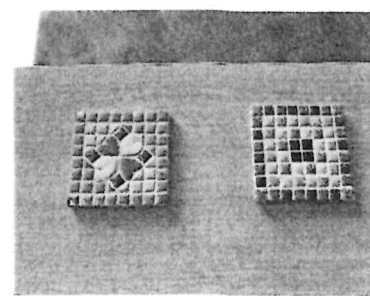
大蔵村では学ぶきっかけづくりの場を提供するため年間7回の講座を行っている。毎回多くの方に参加していただいているが、まだまだ若い世代の参加率が低いのが現状である。

2. 事業のねらい

この講座を通して参加者の方々には、新しいコミュニティ作り、日々の楽しみや生きがいの発見、学びで得た知識を活用し、豊かな生活につなげてほしい。

3. 実施内容

日 時	講 座	会 場	参加者	内 容
6月5日	終活セミナー	中央公民館	13人	エンディングノートの書き方、注意点の確認
6月23日	パークヨガ講座	赤松生涯学習センター	14人	屋外でのヨガの予定だったが、雨天のため室内で「アロマヨガ」を実施
6月29日	郷土料理講座	赤松生涯学習センター	8人	笹巻の作り方、おいしい食べ方のレクチャー
9月8日	縄文文化講座	赤松生涯学習センター	8人	縄文土器風のコップの作製、縄文時代の文化についての学習
11月3日	タイルクラフト講座	中央公民館	11人	小さなタイルを組み合わせて作る、タイルクラフト講座を実施
11月24日	いきいき講演会	中央公民館	25人	山形落語愛好協会の方を招いて、落語の講演会を実施
12月22日	お菓子づくり教室	赤松生涯学習センター	20人	クリスマス前ということでイチゴのタルトなどのお菓子づくりを実施



4. 事業のねらいとの関連・工夫等

(1) 参加したいと思える講座と新しいネットワークの構築

①募集の段階で心掛けたこと

毎日の生活を送る中で、「どんなことを学べば生活の役に立つか」「どんな講座なら参加したいか」など住民目線で企画を考えることで、たくさんの方々に参加してもらえるよう心掛けた。

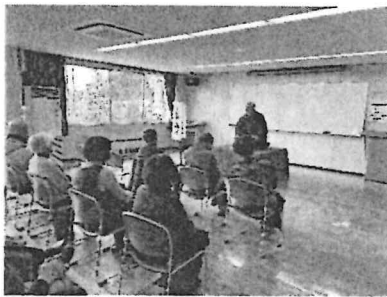
②新しいネットワークの構築

生涯学習講座では事業の性質上、普段の生活では挑戦しないようなことをしたり、時には困難なことに挑戦するなど、新しい自分を発見できる場所でもある。新しい自分の発見は、新しいネットワークを構築するための第一歩であり、豊かな生活を送る上でとても大切なことと考える。この生涯学習講座を通して、参加者同士が親睦を深め合い、新しいネットワークを広げる場所となることを目標に、事業を計画した。

(2) 安定した集客のために

チラシ・ポスターの配布や掲示

人目につきやすい場所や窓口付近などにチラシやポスターを置くようにした。また、放課後児童クラブに協力してもらうなど外部への協力依頼も安定した集客のための大きな力となった。



5. 成果 (○) と課題 (●)

- 毎回の参加人数が定員近くということもあり、住民目線の講座を企画できたのではないと思う。
- 12月22日のお菓子づくり講座の際、親子層の募集に力を入れた結果、親子で参加される方の応募が多数あった。今後募集する年齢層を絞って講座を行う際などに参考にしたい。
- 高齢者世代は多くの方の参加があったが、20代、30代の方の参加が極端に少なかった。来年度は、若い世代を対象とした講座を企画していきたい。
- 毎年行う事業となると、どうしても何年間か同じ企画をやり続けてしまう。人気のある企画を残し、よりよい企画へ改良していくことも大切なことだが、来年度は、どんどん新しい企画を考案し、新鮮味のある事業を行っていきたい。

6. 終わりに

今年度も参加者の方々や、多忙の中日程を確保してくださった講師の方のおかげで、多種多様な生涯学習講座を開催することができた。この経験を通し、私たちの仕事は住民の方々がいるからこそ成り立つ仕事なのだと再確認できた。

来年度は、常に身の回りの声に耳を傾け、住民の思いに沿った講座を開催していきたい。そして、この生涯学習講座をより良いものにしていけるよう、日々努力していく。

「運動指導者のための応急救護講習会」

大蔵村

1. はじめに

大蔵村スポーツ協会では、「スポーツ振興を通じて村民の健康と体力の向上や競技力向上、スポーツ精神の高揚を図ること」を目的とし、大蔵村教育委員会や村内スポーツ関係団体と連携し、村の生涯学習の重点である「村民ひとり一学習ースポーツ」の実践に向けた生涯スポーツの推進を図るための活動を実施している。

これまでの講習会では、「スポーツ栄養学」や「スポーツ障害予防とストレッチ」、「現場で使えるテーピング」などの実践的な内容の講習会を開催した。

2. 事業のねらい

日々の練習や大会等のスポーツの活動中に、選手や参加された方の身体の調子が急に悪化し、意識がなくなり倒れてしまう場合がある。

村内のスポーツ少年団をはじめ、各スポーツ関係団体の指導者や保護者等、多くの参加者に「AEDを使用した心肺蘇生法とスポーツ外傷における応急手当」の講習を受けて頂き、講義と実践を通じ、緊急時の対応について実践力を高める事を目的として開催した。



3. 具体的な取り組み

- ・主 催：大蔵村スポーツ協会
- ・開 催 日：令和6年12月14日（土）
- ・会 場：大蔵村中央公民館
- ・講 師：最上広域市町村圏事務組合消防署南支所
- ・テ ー マ：「AEDを使用した心肺蘇生法とスポーツ外傷における応急手当」
- ・対 象 者：スポーツ少年団の団員及び指導者・保護者、小中学校の教員
スポーツに携わる方及びスポーツ関係団体の委員や会員の方等
- ・参加者数：25名
- ・参 加 料：無料
- ・日 程：

13:00 13:30 13:40 15:20 15:30

受付	開会 行事	講習会 【講義・実技】	質疑応答 閉会行事
----	----------	----------------	--------------

4. 講習会の内容

① A E Dを使用した心肺蘇生法について

- ・ 応急手当講習のDVDを視聴しA E Dの使用方法和救助方法についての学習

② スポーツ外傷における応急手当について

- ・ 応急手当講習のDVDを視聴し捻挫や骨折等のスポーツ外傷における応急手当の学習

③ A E Dを使用した心肺蘇生法の実践

- ・ 参加者を2グループに分けて、実際の現場での動き方を想定しA E Dを使用した心肺蘇生法と心臓マッサージの実践

④ 三角布を使用した応急手当の実践

- ・ 前腕部分の骨折を想定し、新聞紙や雑誌、三角巾等の布を使用し、患部の固定による応急手当の実践



5. 成果と課題

① 成果

- A E Dを使用した心肺蘇生法や正しい心臓マッサージの方法や捻挫や骨折などのスポーツ外傷における応急手当の方法について学ぶことができた。
- 実際の現場を想定した救助訓練や応急手当を実践の学習を通して、参加者同士がアドバイスをしながら、実践力とともに資質の向上を図っていた。

② 課題

- 各スポーツ関係団体の指導者や選手、幅広い世代の方が講習会に参加したが、スポーツに携わる方が一人でも多く参加してもらえるように、事業内容や日程の見直し等の検討を行う必要がある。

6. 終わりに

今回の講習会では、村内のスポーツ少年団の指導者や総合型地域スポーツクラブの会員をはじめ、各競技団体の選手や各スポーツ関係団体の委員の方などが参加し、参加者からは、「非常に勉強になった。また参加したい。」との感想を頂いた。

今後も大蔵村のスポーツ振興を通じて村民の健康と体力の向上や競技力向上、スポーツ精神の高揚が図られる機会の提供を継続していきたい。

生涯学習講座「さけがわ発見塾」

鮭川村

1 はじめに

令和3年3月に策定した「第3次鮭川村総合発展計画」の政策において、「楽しい学び合いの環境づくり」を掲げており、社会のニーズを踏まえた、村民の学びの場の創出を推進している。

その中で、「ギフチョウ属観察会」や「鮭の新切り教室」、「婦人の手づくり講座」、「スポーツ教室」等の各種講座を開催してきたが、「気軽に参加できる新しい学びの場を創出してほしい」、「村の史跡や文化財を学ぶ機会を創出してほしい」と地域住民からの要望があった。

地域からの要望を踏まえ、鮭川村の自然・文化・歴史等が学べる座学研修と、村内の文化財等を巡る視察研修を新たに開催し、多くの地域住民から参加していただいた。

2 事業のねらい

新たな学びのきっかけづくりとして、村の自然・文化・歴史等が学べる研修会を開催する。事業を通じて、豊かな人づくりや仲間づくり、地域づくりに役立てることを目的とする。

3 事業の概要 鮭川村生涯学習講座「さけがわ発見塾」

(1) 座学研修「意外と知らない！？鮭川村の雑学」 ※参加者30名

・日時 令和6年10月11日(金)18時30分～20時00分

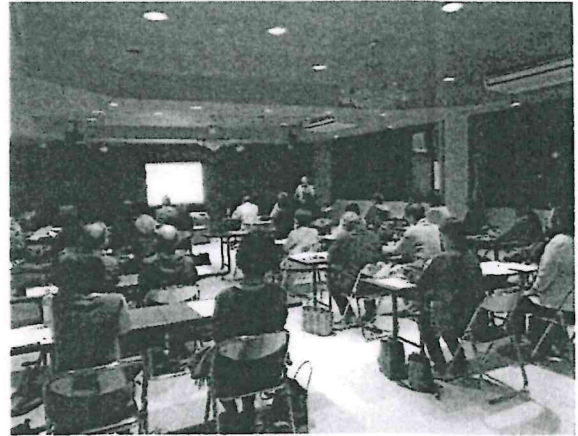
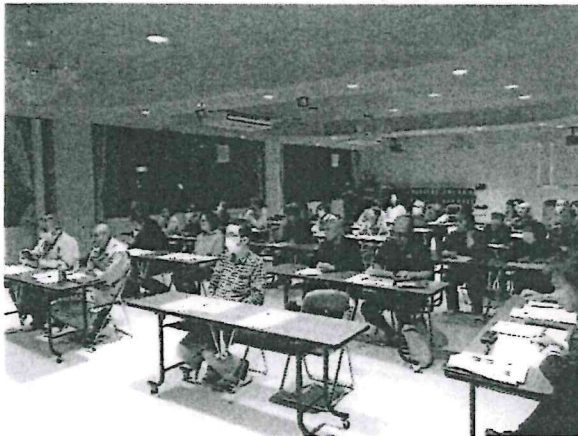
・場所 鮭川村中央公民館3階 大研修室

・講師 矢口 末吉 氏 (鮭川村自然保護委員会)

・アンケート結果

【満足】77%、【やや満足】23%、【どちらでもない】0%、【やや不満】0%、【不満】0%

※記述欄では、村の歴史や自然、産業をテーマとし、継続して開催を望む声が多かった



講師の矢口先生からは、鮭川村の歴史・文化財や自然環境はもちろん、村民が知っているようで知らない雑学を交えながらお話しいただいた。また、村に残る民話・伝説の紹介もしていただいた。

(2) 現地研修「鮭川の史跡・名所巡り」 ※参加者20名

・日時 令和6年11月10日(日)8時30分～15時00分

・場所 村内(地域のある神社や史跡、巨木等)

・講師 矢口 末吉 氏 (鮭川村自然保護委員会)

・アンケート結果

【満足】94%、【やや満足】6%、【どちらでもない】0%、【やや不満】0%、【不満】0%

※記述欄では、今回ルートに入らなかった地域の神社や史跡等を巡りたいという声が多く、継続して開催を望む声が多かった。



※視察場所

高土井墓地の一本杉、岩下の一本杉、谷地の不動滝・石剣、源氏楯、羽根沢の三宝荒神、清水田の龍王神社、真木の山神、日下の白髭神社、役場の招魂の碑

4 成果(○)と課題(△)

- 座学・視察含めて50名の参加をいただき、参加者の満足度も非常に高かった。
- 新たな学びがあったとの感想も多く、村民の学びの場の創出につながった。
- 鮭川村の魅力を再発見し、歴史や文化に理解を深めていただく機会になった。
- 若い世代を含め、幅広い年齢層の方の参加をいただき、世代間交流の機会にもなった。
- △今後も継続して講座を開催できるように、人材発掘やテーマ設定等の企画力が必要である。

5 今後の展望

今回は試験的に講座を開催したが、大変好評で満足度も非常に高かったため、次年度以降も継続して講座を開催していく。この度のアンケート調査を参考に、住民のニーズを踏まえた上で講座内容を企画していきたい。

鮭川村スポーツ協会村制施行70周年記念事業 スポーツでワクワクする鮭川村をつくろう！

鮭川村

1 はじめに

令和6年度は鮭川村の村制施行70周年を記念する年であり、村内において様々な催しが企画・開催された。本協会においても村制施行70周年を記念する事業として、村内のスポーツが好きな人や今までスポーツにあまり関心がなかった人等、全ての人が気軽に参加できるイベントを企画・実施することとした。

イベントには、村体育普及委員や村スポーツ推進委員からも協力いただき、参加者・スタッフ全員参加型のイベントを開催することができた。

2 事業のねらい

村制施行70周年を記念して、スポーツを通じてワクワクする地域づくりを目指すことを目的とし、全村民向けの講演会及びスポーツ体験イベントを開催する。また、スポーツを行う上で大切な体づくりについて、地元の食材を食べながら学ぶ食育交流会も併せて実施する。

3 事業の概要

(1) 日時 令和7年2月1日(土)

(2) 会場 鮭川村立鮭川小学校 体育館・ランチルーム

(3) スペシャルゲスト(山形県出身のオリンピック)

加藤条治氏(スピードスケート)、鈴木沙織氏(フリースタイルスキーハーフパイプ)、
池田めぐみ氏(フェンシング・エペ)、岡澤セオン氏(ボクシング)

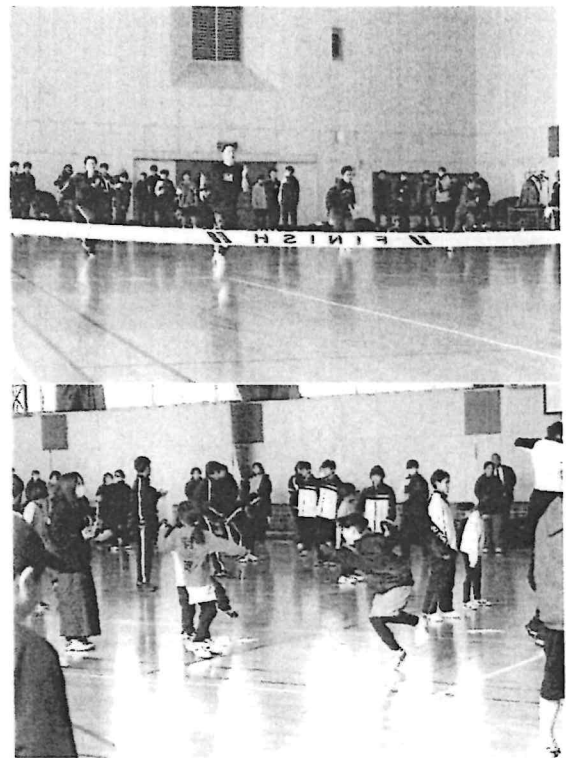
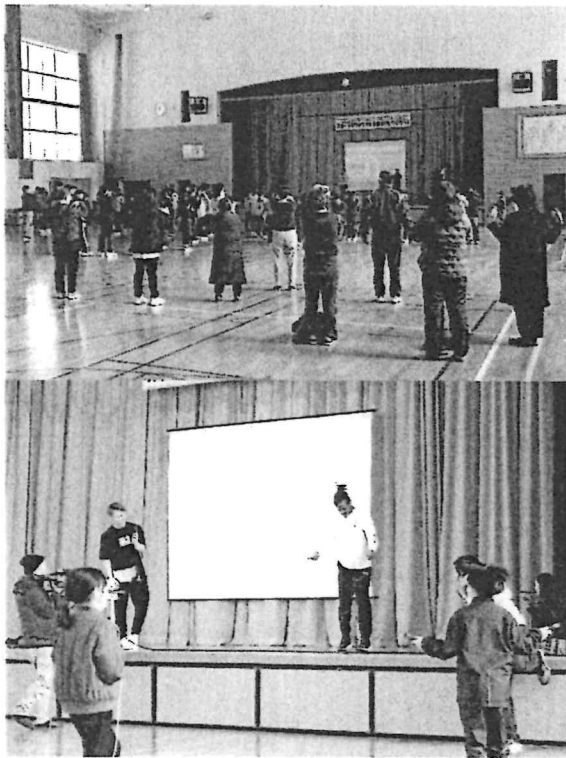
(4) 参加者 160名

(5) イベント内容

- ①オリンピックによるトークリレー「スポーツでワクワクする鮭川村をつくろう！」
- ②パネルディスカッション&QAタイム
- ③オリンピックと一緒に体を動かそう！
- ④食育交流会「みんなで一緒に食とスポーツについて考えよう！」



①・②スポーツの魅力や地元に対する想い、選手として自分との向き合い方等のお話をいただいた。



③全員でウォーミングアップを行った後に、オリンピック4名と20m競争や1分間のなわとびチャレンジ等一緒にスポーツ体験を楽しんだ。



④鮭川村産の食材を使った料理（なめこ入りとん汁、きのこのたきこみごはん、ほおずきジャム入りヨーグルト、からあげ、しいたけのてんぷら）を地元企業に作ってもらい、オリンピックと参加者がスポーツや将来について語りながら交流を図った。

4 成果(○)と課題(△)

○イベント全体で160名の参加をいただき、参加者からの評価も非常に良かった。

○講演だけでなく、一緒にスポーツを体験・食育交流があったことで「とても楽しく思い出に残るイベントだった」と多くの声をいただいた。

○スポーツに対する考え方や自分を見つめ直す機会の創出に繋がった。

△全世代向けイベントとして企画したが、高齢者層の参加率があまり高くなかった。

5 今後の展望

70周年を記念する事業として開催し、大変好評で満足度も非常に高く、イベントとしては成功した。今回を機にNPO法人さけがわ友遊クラブとアスリートの方との繋がりも生まれ、村のスポーツ推進において新たな事業展開が期待できる。

令和6年度戸沢村青少年健全村民フォーラム「とざわげんきまる祭」

戸沢村

1. はじめに

戸沢村青少年育成村民会議は地域の社会教育活動の中心となっている。各地区で行われていた通学合宿や、地域共育活動のメンバー、PTA連絡協議会役員が幹事となり、「共育」推進のため様々な事業を行っている。

その中でも、主要な事業の一つである青少年健全育成村民フォーラムは今年度で23回目となっており、例年10月第2土曜日「戸沢村共育の日」に開催していたが、郡内の他事業などと重なり、参加者も全体的に少なくなっていることが課題であった。そこで日程を再調整し、内容もまずは「参加したい」と思えるような、子どもから大人までと一緒に体験できる楽しいものにしようと話し合った。

豪雨災害に負けず元気に盛り上げていこうという思いも込め、事業名を村民会議シンボルマークの名前から「とざわげんきまる祭」とした。

2. 事業のねらい

村民会議、PTA連絡協議会、児童生徒などが参画して実施することで、子どもから大人まで多世代が集い交流し、地域の子どもは地域で育てるといった「共育」を推進していく基盤を作り出す。

3. 具体的な取り組み

期 日：令和6年10月6日（日）9時～12時

場 所：戸沢村中央公民館 1階体育館・和室・ロビー、外スペース

【内 容】

○開会式・各種表彰式

青少年育成村民会議表彰（いじめ標語、メディアコントロール標語）、PTA表彰（スポーツ優秀、文化優秀）、中央公民館図書室表彰（POPコンクール）、スポーツ協会表彰



○戸沢学園中部9年生の企画

最上教育事務所の「郷土の魅力発見・体験事業」との連携で開催。中部6名が2班に分かれて、戸沢村の食材を使ったたこ焼きとパンケーキづくりを初等部の子どもを対象に実施。当日は開始から終了までずっと人が並び、大変賑わっていた。



○体育館での体験コーナー

体育館では、村民会議とPTA連絡協議会のメンバーで、モルック体験、ダイラタンシー実験、スライムづくり、紙飛行機づくり、ストラックアウトなど多くの体験コーナーを実施した。用意した材料が早くなくなるほど多くの参加があった。



○えほんの森ハロウィンSP

毎年行われている戸沢村図書館の人気事業を同日開催で行った。ハロウィンゲームや仮装フォトブース、絵本のおさがり市など盛りだくさんの内容だった。



○積載車等展示、非常食体験、はたらくるま展示・体験

外では警察、消防、自衛隊の方々にご協力いただき、はたらくるまの展示や乗車体験を行った。また、戸沢村消防団より積載車等の展示と非常食の試食など、防災を学ぶ企画も行った。



4. 成果と課題

当日は天候も良好で、多くの親子連れや子ども同士の参加が多く、全体を通して参加者数は例年の倍以上となった。様々な企画を一堂に会し体験できる形にしたことで、各所で楽しそうな声が聞こえていた。また、担当者の方々が各コーナーを一生懸命準備し、盛り上げてくれたことも大切な要素だと感じる。

地区に子どもが少なく以前のように地区単位の事業が難しくなっている中、学区単位での大きな事業として世代を超え共有できたことは成果と言える。

課題としては、企画側の負担が大きくなることだ。終了後の感想で「自分達も他のブースを見たかった」という声が多く、次回は企画側も一緒に楽しめるよう、人員を増やすなど内容を検討する。

第5回とざわジュニアスポレク祭

戸沢村



1 はじめに

小学生の各学年や、スポーツ少年団の各団体の枠を超えた交流、親睦を深めることをねらいとして、令和2年度からとざわジュニアスポレク祭を開催しており、今年で5回目となる。戸沢村スポーツ推進委員会が中心となって企画し、戸沢村スポーツ少年団や総合型地域スポーツクラブとも協力して、実行委員会で協議を進めながら毎年開催している。1～6年生が参加対象で、低学年からでも楽しめるようなスポーツを実施している。

2 事業の実施日程

10月10日(木) ジュニアスポレク祭第1回実行委員会
日程・種目の決定

10月11日(金)

～11月15日(金) ジュニアスポレク祭参加者募集期間
チラシ配布・集約

10月23日(水) 第6回戸沢村スポーツ推進委員定例会
種目ルールについて協議

11月27日(水) ジュニアスポレク祭第2回実行委員会
参加者・チームの確認と役員の確認

12月15日(日) 第5回とざわスポレク祭開催

3 事業の実施内容

- 8:30 ～ 役員最終打ち合わせ
- 8:45 ～ 受付開始
- 9:00 ～ 開会式・準備運動・ルール説明
- 9:35 ～ 1種目(スポーツ鬼ごっこ)
- 10:35 ～ 2種目(ドッジボール)
- 11:30 ～ 閉会式
- 11:35 ～ ビンゴ大会
- 12:00 ～ 全日程終了

4 成果と課題

- 戸沢村スポーツ推進委員会・戸沢村スポーツ少年団・総合型地域スポーツクラブで実行委員会を組織し、競技種目の選定及び競技しやすいルールづくりや参加者への周知等を行った。スポーツ少年団未加入の児童の申込数が増えて、普段スポーツをする機会が少ない児童にも参加してもらうことができた。
- 給水の注意喚起や、危険なプレーが無いようにルールを順守して競技を実施し、大きな事故もなく全日程を終了することができた。
- 毎年終了後に参加者全員にアンケートを書いてもらい、今回の満足度調査、改善点をあげてもらっている。反省点を活かしてより良い活動になるようにしていきたい。
- 参加できる戸沢村スポーツ推進委員が少なくなっており、次回以降も継続して行っていくには組織の人員の確保が必要だと感じる。



チャンスにチャレンジしてチェンジする ～「アドベンチャーキャンプ」を通して～

山形県神室少年自然の家

1 はじめに



本所では、子育て支援事業として、子どもたちの発達段階に応じた様々な体験活動を行っている。その中に、子ども達の夏休みを利用した長期キャンプ「アドベンチャーキャンプ」がある。しかし、今年は、最上地区にも甚大な被害をもたらした豪雨災害の影響を受け、開催そのものが危ぶまれたが、様々な方のご理解とご協力を得な

がら、期間を短縮し、プログラムを大きく変更した上で、何とか開催することができた。その中で、見えてきた体験活動の意義について考察する。

2 事業のねらい

- ・ ダイナミックな自然体験活動を通して、全力で挑戦し、やり遂げようとする意欲を高める。
- ・ 仲間と協力して共同生活を送り、仲間と自分自身のよさに目を向けるきっかけを作る。
- ・ 大自然の中での体験を通して、心豊かにたくましく生きる力を育てる。

3 具体的な取り組み

(1) 日程 令和6年8月1日(木)～4日(日) 3泊4日

(2) 参加人数 21名(小学生18名 中学生3名 / 男子10名 女子11名)

(3) 活動内容

行 程	主なプログラム
1日目	出合いのつどい テント設営 野外炊飯 ポンファイヤー
2日目	山寺石段チャレンジ 野外炊飯
3日目	神室で水遊び さよならパーティー
4日目	テント撤収 思い出クラフト 別れのつどい

豪雨災害の影響により、当初予定していた真室川町内での川遊びや、最上町の白川キャンプ場でのテント泊や禿岳登山を中止せざるを得ない状況となり、5泊6日の予定を3泊4日に変更しての実施となった。

川での活動ができなくなったことで、真室川町教育委員会にご協力いただき、真室





に工夫を凝らすなど、仲間との活動を楽しむことができた。

川町内の学校のプールを利用させていただく準備を進めたが、最終的に自然の中での体験活動を重視し、神室の敷地内での水遊びをすることとした。ドラム缶風呂やボートプール、傾斜地を利用したブルーシートウォータースライダーなどを楽しむことができた。

また、さよならパーティーでは、班ごとに「ピザ」「稲荷ずし」「豚汁」「焼きそば」の調理を担当したことはもちろん、各班で出し物

4 成果（◎）と課題（△）

◎ 日程の短縮やプログラムの変更を余儀なくされたが、初めて出会う子ども同士が寝食を共にし、3泊4日の時間を自分達で作り上げていく過程こそが、子ども達を大きく成長させる体験であった。

◎ さよならパーティーでの様子から、子ども達に委ねる場面を設定することが、子ども達の主体性や個性を発揮する場に繋がることを、あらためて実感した。

◎ 事業のねらいを達成するためには、3泊4日の中で、どんなストーリーを描き、1つ1つのプログラムにどんな意味を持たせ、どうつないでいくか考えることが大切であることを、あらためて実感した。

△ 長期間に渡って自然体験活動を重視した事業を展開する際に、運営や安全管理の観点から、指導や支援するスタッフの人員確保が課題である。

5 終わりに

本所では、来所いただく皆さんに、「神室の3つのC」として、「チャンス」に「チャレンジ」して、「チェンジ」することを大切にしている。今回の事業を通して実感したのは、日程やプログラムの重要性はもちろんであるが、それ以上に、子ども達が、家族や友達と離れた環境の中で、初めて出会う仲間と、居心地のいい関係をみんなで作っていくこと、その体験そのものの重要性である。今回、サポーターとして参加いただいた高校生、大学生の中に、このアドベンチャーキャンプのOB、OGの方がいた。当時を振り返って、参加したことで何がチェンジしたか尋ねたところ、「引っ込み思案と思っていた自分だったが、初めて会う仲間と一緒に過ごせたことが、とても自信になった」とのことだった。チェンジとは、別の新しい自分になるわけではなく、自分の内にあった自分が気付いていない自分に気付くこと、新たに気付いた自分に自信を持つことなのではと考える。子ども達にとって、このアドベンチャーキャンプが、そんな新たな自分と出会う体験となるよう、今後も支援を図っていきたい。また、そんな体験活動の意義を、広く発信していきたいと考える。

